防除所ニュース　　発行　平成２２年８月２６日

平成２２年　第 ４ 号　　京都府病害虫防除所

★ 水稲 コブノメイガ・トビイロウンカ情報 ★

コブノメイガ 情報

●コブノメイガの発生状況等

８月中旬の巡回調査の結果、コブノメイガの発生は、**山城・南丹地域で平年比多**、中丹・丹後地域では平年並の発生でした。調査株外での発生を含めると調査定点の大部分のほ場で発生を確認しました。

●被害と減収

コブノメイガの食害は僅かであっても非常に目立ちます。しかし、**少し食害が目立つ程度であれば収量・品質にはあまり影響をあたえません**。

被害と減収率の関係について確定したものはありませんが、いくつかの試験事例等があります。

・試験事例①
　幼穂形成期後、出穂期頃までに上位２葉が被害を受けると被害葉率40％で10％程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80％以上でも収量・品質に及ぼす影響は少ない。

・試験事例②
　最高分けつ期から出穂期にかけて加害され、出穂期調査で食害葉率10％で減収率２％、30％で５％、50％で10％。止葉100％の被害葉率で減収率25％。

●コブノメイガの性質

出穂期以降はイネの葉が硬化するため、出穂したイネにはほとんど産卵せず、成虫は野菜作跡の水田や多肥田等の**葉色が濃く、葉のやわらかいイネに集中飛来・産卵するため被害が発生**します。

今後、**中晩生水稲**の中でも特に**出穂の遅いほ場や葉色の濃いほ場では、成虫の集中飛来が予想され、被害が発生するおそれがあります**。

●防除上の注意事項

・粒剤の場合、防除適期は発蛾最盛期です。
・粉剤や液剤の場合は**若齢幼虫を対象とした防除が最も効果的**で、防除適期は発蛾最盛期の７日後になります。なお、葉巻内で加害している老齢幼虫に対しては薬剤の効果がかなり低くなります。
・**農薬の使用にあたっては使用基準を遵守**してください。収穫期に近いので、**収穫前使用日数や使用回数に注意**してください。
・薬剤による防除は、被害状況、経費、労力等を考慮して検討してください。

トビイロウンカ情報

「イネウンカ類の飛来予測システム（日本植物防疫協会ＪＰＰ－ＮＥＴ）」によると、京都府では６月中旬から現在まで断続的に飛来が予測されており、トビイロウンカが早期に飛来している可能性もあります。今後の発生状況に注意してください。

●トビイロウンカの発生状況等

府内の**予察灯調査**で**トビイロウンカ**を、**８月１６日**に**亀岡市**で１頭確認しました。
８月中旬の巡回調査における水田の見取り・払い落とし調査では発生を認めませんでしたが、**すくい取り調査**では**山城地域**の１ほ場で**トビイロウンカ**の**長翅成虫**を１頭確認しました。

●トビイロウンカの生態・注意点

トビイロウンカの飛来世代は通常密度が低いので実害はありませんが、次世代以降急激に増殖し、坪枯れを生じさせることがあります。通常１ヶ月弱で世代を繰り返します。
飛来は**地域差・ほ場差が非常に大きい**と思われます。トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、**ほ場をよく観察し、発生に十分注意**してください。低湿田、通風不良田、多肥田等では発生しやすいので注意が必要です。
中晩生品種には今後収穫までの期間が長いものもあるので、**発生状況に注意**してください。
なお、出穂前後の害虫防除を実施したほ場では被害（坪枯れ）が生じる可能性は非常に低いと考えられます。

●防除上の注意事項

・防除の目安は株当たり**成幼虫が５匹以上**です。
・**農薬の使用にあたっては使用基準を遵守**してください。収穫期に近いので、**収穫前使用日数や使用回数に注意**してください。
・粉剤や液剤で防除する場合は、**薬剤が株元に十分届く**ように散布してください。なお、防除の際には、**周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意**してください。
・収穫期が迫り、薬剤防除が出来ないほ場は、収穫適期の範囲内で早めに収穫してください。
・必要以上に早い落水は、坪枯れの発生を助長するので、適期落水に努めてください。